

祈りのきずな 2月

エレミヤ書3章～30章

大村古賀島教会（長崎）

牧師 川久保拓也（かわくぼ たくや）

1日(日)エレミヤ書3章

主は言われます。「ただ、お前の犯した罪を認めよ（13節a）」と。聖書は私たちが罪を犯してしまうことを問題にはしていません。むしろ、罪を犯してしまうことは前提にされています。問題にされているのは、罪を示された時に素直に認められるかどうかです。素直な心で神に向き合っていきたいものです。

大村古賀島教会と川久保拓也牧師（長崎・大村市）

2日(月)エレミヤ書4章

「わたしのもとに立ち帰れ（1節b）」という呼びかけは、聖書中何度も繰り返されています。何度も神に背いてしまう私たち人間を神は忍耐をもって堪えられ、ご自分のもとへと立ち帰るよう導いてくださる方です。それは例えるなら崖に向かって進んでいく私たちを必死に止めようとしている声に似ています。

相浦光教会と田中明子代表役員代務者（長崎・佐世保市）

3日(火)エレミヤ書5章

「彼らは主を拒んで言う。『主は何もなさらない』（12節ab）」。私たちも時折、このように思ってしまうことはないでしょうか。自分にとって困難な状況の中にいると、とくにそう思うものかもしれません。そのような時思い起こしたいのは、神は私たちを裁くことではなく、救うことを望まれているということです。

佐世保教会と鮫島則雄牧師（長崎・佐世保市）

4日(水)エレミヤ書6章

「見よ、主の言葉が彼らに臨んでも／それを侮り、受け入れようとしない（10節c）」。私たちは日々、聖書からみ言葉を聞いているはずです。しかし、そのことに気づかずにいることもあるのではないかでしょうか。聖書の字面を読むのではなく、そこから自分に語られているみ言葉を受け取ることが大切です。

嬉野教会と藤野慶一郎牧師、橋爪義行伝道主事（佐賀・嬉野市）

5日(木)エレミヤ書7章

「わたししが命じる道にのみ歩むならば、あなたたちは幸いを得る（23節d）」。このことも聖書が繰り返し私たちに語りかけていることです。神の命令は言い換えれば、神の私たちに対する願いです。その願いは私たちが正しく生きていくために大切なものです。神との正しい関係が私たちの信仰の本質です。

鹿島教会と玉置行牧師（佐賀・鹿島市）

6日(金)エレミヤ書8章

「どうしてお前たちは言えようか。『我々は賢者といわれる者／主の律法を持っている』と（8節ab）」。私はバプテスマを受けているから、毎日聖書を讀んでいるから、毎日祈っているから、と安心してしまうことはないでしょうか。私たちは日々神の思いを尋ね求めながら歩んでいくことが求められています。

佐賀新生教会（佐賀・佐賀市）

7日(土)エレミヤ書9章

「主はこう言われる。知恵ある者は、その知恵を誇るな。力ある者は、その力を誇るな。富ある者は、その富を誇るな（22節）」。私たち人間に誇れるものは何一つありません。私たちにはそれぞれ異なる賜物が与えられていますが、それらはすべて神が私たちを用いられるために与えてくださったものだからです。

靈水教会と湯川洋久牧師（佐賀・佐賀市）

8日(日)エレミヤ書10章

なぜ聖書は一貫して偶像礼拝を禁じているのでしょうか。それは突き詰めれば自己崇拜に他ならないからです。私たちにはその自覚がなくとも形あるないに関わらず、あらゆるものを偶像としてしまう危険性があります。しかし、それらは「**災いをくだすことも／幸いをもたらすこともできない**（5節）」のです。

佐賀教会と奥村敏夫牧師、中村千枝子伝道師、山崎誠教会主事（佐賀・佐賀市）

9日(月)エレミヤ書11章

「**わたしに助けを求めて叫んでも、わたしはそれを聞き入れない**（11節）」。これだけ聞くと私たちは神の非情さを感じてしまうかもしれません。しかし、この章でも語られている通りこれまで神は何度もイスラエルに立ち帰りを促されてきました。神の忍耐と寛容を私たちは軽んじることは許されません。

大川伝道所と奥村敏夫牧師（福岡・大川市）

10日(火)エレミヤ書12章

聖書の中で神の願いは一貫しています。それは私たち人間がご自分との関係の中で共に歩むことです。ゆえに裁きは神の本意ではありません。だからこそ、神は裁きの後に回復をも必ず備えてくださる方なのです。「**再び彼らを憐れみ、そのひとりひとりをその嗣業に、その土地に帰らせる**（15節）」。

壱岐教会と飛永孝・飛永永子各牧師（長崎・壱岐市）

11日(水)エレミヤ書13章

神は無限の赦しを与えてくださる方ですが、私たちがそれを感謝を持って受け取るのではなく、高を括って傲慢に振る舞うのならば、神はそのような私たちの心を必ず碎かれる方です。私たちは「**闇が襲わぬうちに／足が夕闇の山でつまずかぬうちに**（16節 a）」悔い改めて立ち帰ることが求められています。

久留米荒木教会と溝上哲朗牧師、吉田晃児・塙田正昭各協力牧師、山田哲也教会主事（福岡・久留米市）

12日(木)エレミヤ書14章

私たちは誰しも罪悪感というものを感じる時があるでしょう。それはまさに「**我々の罪が我々自身を告発してい**(7節)」るということなのかもしれません。そしてそれは同時に私たちの罪に対する神の悲しみの嘆きでもあるでしょう。「**わたしの目は夜も昼も涙を流し／とどまることがない**(17節b)」。

久留米教会と踊真一郎牧師、踊夢希教会主事、渡辺信一協力牧師（福岡・久留米市）

13日(金)エレミヤ書15章

私たちは一人ひとりがみ言葉を語る者、預言者として立てられています。その中では時にさまざまな苦悩や痛みも経験するかもしれません。エレミヤもそうでした。しかし、神はエレミヤに、私たちに確かな助けと豊かな慰めを備えてくださる方です。「**わたしがあなたと共にいて助け／あなたを救い出す**(20節c)」。

鳥栖教会と野中宏樹牧師、濱野道雄協力牧師、日比垂門教会主事（佐賀・鳥栖市）

14日(土)エレミヤ書16章

エレミヤ書は厳しい裁きの言葉が続き、だんだん読んでいくのがしんどくなってしまうかもしれません。しかし、前にも申し上げた通り、神の本意は裁きではなく、救いであります。私たちがたとえ裁きを受けることがあったとしても、神は裁きと共に「新しい出エジプト」を示してくださいの方なのです。

筑紫野南教会と原田寛牧師（福岡・筑紫野市）

15日(日)エレミヤ書17章

私たちの心の内はすべて神に見通されています。私たちがどんなに表面上取り繕っても、心の奥底にある眞の思いを隠すことはできません。だから私たちは神に対して素直な心で正直に向き合っていくことが求められています。「**心を探り、そのはらわたを究めるのは／主なるわたしである**(10節a)」。

筑紫野二日市教会と加来国生牧師、加来陽子音楽責任者（福岡・筑紫野市）

16日(月)エレミヤ書18章

「陶工は粘土で一つの器を作っても、気に入らなければ自分の手で壊し、それを作り直すのであった（4節）」。陶工が器を作るようには、神は私たちを創造されました。神はいつでも私たちを壊して作り直すことができる主権を持っておられるということです。そのことを畏れをもって受け止める必要があります。

福岡南伝道所と有吉光寛牧師、柴田公文伝道師（福岡・福岡市南区）

17日(火)エレミヤ書19章

しかし、神はその主権を行使されなかったことを私たちは知っています。最終的に行使されたのは、私たち人間を愛し、回復させるという救いの主権だったのです。私たちは神の怒りを侮ることは許されませんが、同時に神は無限の憐れみと赦しを与えてくださる方であることを示されてもいます。

春日原教会と末松隆夫・原田賢各牧師（福岡・春日市）

18日(水)エレミヤ書20章

この章はエレミヤの預言者としての苦悩の告白がなされています。私たち一人ひとりも神の言葉を語り伝えるよう託された者です。神の言葉を語る者は皆エレミヤのような苦悩と闘うことになりますが、神にそれを打ち明けることが許されています。「わたしの訴えをあなたに打ち明け／お任せします（12節c）」。

篠栗教会と伊藤聰牧師（福岡・糟屋郡篠栗町）

19日(木)エレミヤ書21章

神は裁きの最中でさえ、逃れる道を備えてくださる方です。「見よ、わたしはお前たちの前に命の道と死の道を置く（8節b）」。私たちが裁かれる状態のままそのまで進むならば行き着く先は「死の道」ですが、神の呼びかけを聞き入れて道を改めるならば「命の道」を歩むことが許されているのです。

宇美教会と間村史子牧師（福岡・糟屋郡宇美町）

20日(金)エレミヤ書22章

神はユダの王に「**正義と恵みの業を行**(3節b)」えと言われています。つまり、当時の南ユダではこれらのが行われていなかつたということです。神との関係の歪みは、人間関係にも歪みをもたらしていきます。「**搾取**」や「**虐げ**」が行われている状況を神は放ってはおかれない方です。

粕屋教会と柳田賢吾教会主事（福岡・糟屋郡志免町）

21日(土)エレミヤ書23章

「お前たちは勝手に自分の言葉を託宣とし、生ける神である我らの神、万軍の主の言葉を曲げたからだ(36節b)」。滅ぶ寸前の南ユダでは神の言葉を自分勝手に利用するようなことが横行していたようですが、神の言葉をそのように扱うことは許されません。
真摯な思いでみ言葉を聴いていきたいものです。

和白教会と城前和徳牧師、片山寛協力牧師、洪淳奎副牧師・宣教師（福岡・糟屋郡新宮町）

22日(日)エレミヤ書24章

最終的にユダの民は捕囚という裁きを受けることになります。しかし、裁きの中であっても、神はユダの民を忘れることなく、恵みを与え続けてくださっていました。私たちも時に神に忘れられているかのように感じてしまうことがあるかもしれません、どんな時でも神は私たちと共にいてくださるのであります。

小郡教会と下川睦子牧師、吉浦徳美教会主事（福岡・小郡市）

23日(月)エレミヤ書25章

神は預言者を用いてユダに何度も警告を与えられ、またバビロンの王ネブカドレツアルを用いてユダに裁きを与えられました。神はあらゆるもの用いることのできる主権をお持ちの方です。私たちの身近なところにあるであろう神の器を見極め、それを通じて語られる神の声を聞いていきたいと願います。

福岡新生教会と竹田殉 聖主任牧師、竹田耶子武牧師、李聖徳、河端真理子、ジャナク・カンデル各宣教師、張磊国際関係交流主事、竹田浩協働牧師、野口和子協働伝道師（福岡・福岡市南区）

24日(火)エレミヤ書26章

自分に都合が悪い耳の痛い言葉というものは誰であっても聞きたくないと思うものです。それゆえユダの王ヨヤキムは耳の痛い言葉を語る預言者を殺してしまいました。しかし、そのような耳の痛い言葉こそが自分を神へと立ち帰らせるためのみ言葉なのです。素直な心でみ言葉と向き合っていきたいものです。

インドネシア伝道と野口日宇満宣教師のために

25日(水)エレミヤ書27章

バビロン捕囚はイスラエルの民にとって耐え難い屈辱的な出来事だったでしょう。しかし、その出来事があったからこそ、その後、彼らはもう一度神に立ち帰り、再出発することができたのだと思います。私たちもまた「あの出来事があったから、今の自分がある」と言えるような経験はないでしょうか。

国際ミッション・ボランティアの働きのために（佐々木和之氏・ルワンダ）

26日(木)エレミヤ書28章

耳心地の良い言葉は聞いた瞬間は確かに安心したり、気持ちよくなったりするものかもしれません。しかし、それは一時のことであり、本質的な解決には決して繋がりません。私たちは耳心地の良い言葉だけ選んで聞いてしまうことはないでしょうか。むしろ耳の痛い言葉こそが私たちを変えるみ言葉なのです。

シンガポール国際日本語教会（I J C S）のために

27日(金)エレミヤ書29章

神はイスラエルを連れ戻す平和の計画を立ててくださっています。私たちが心を尽くして神を求めるなら、神は必ず私たちに応えてくださる方です。神の望みは私たちが幸いを得ることです。たとえ私たちが裁きを受けることがあっても、すべては神が私たちに幸いを得させるための平和の計画の内なのです。

アジアバプテスト女性連合（ABWU）のために

28日(土)エレミヤ書30章

神は私たちに愛をもって関わってくださる方です。しかし、その愛は私たちを甘やかすものではありません。私たちが正しく生きることができるように、神は時に厳しく私たちに関わられます。神の愛は「裁き」と「慈しみ」の両輪で成り立っているのです。「わたしはお前を正しく懲らしめる(11節d)」。

プリ・キンダーガルテンスクールのために（インド）

■世界からクリスマスのご挨拶

■韓国バプテスト女性宣教連合

クリスマスおめでとうございます。私たちと共におられる神さまが私たちを一つにし、み業を始めてくださったと信じます。私たちのパートナーシップを通して多くの人びとに神さまのよき知らせを伝え、救いの恵みを経験することができますように。クリスマスのこの時、女性連合の皆さま一人ひとりがインマヌエルなる神の恵みを豊かに経験することを願っています。



■ギフカ・スー師（プレス・カンボジア・ネットワーク〔カンボジア〕）

2025年は私たちのミニストリーと家族にとってとても祝された1年でした。多くの事柄がありましたが、私たちの神の真実と皆さまのご協力によって取り組むことができたことを感謝します。皆さまの祈りとささげものは言葉では言い表すことのできないほど大きな意味をもっています。

■S・K・モハンティ師（プリ・キンダーガルテンスクール〔インド〕）

この度は素敵なクリスマスカードと温かいお祝いの言葉をいただき、誠にありがとうございます。私たちの活動において大切な女性連合の皆さまからのカードをお送りいただき、心から嬉しく思っております。皆さまの愛と祈りが私たちの歩みを支えてくださり、インドの困窮している子どもたちへのご配慮に深く感謝しております。どうか神さまが皆さまと他の人びとをキリストへと導く皆さまの努力を祝福されますように。

■アドノ・クロースさん（アガペホーム〔カンボジア〕）

アガペホームより祝福に満ちたクリスマスをお祈り申し上げます。神さまの恵みによって私たちは皆元気に過ごしています。皆さまの変わらぬご支援と祈りに心より感謝申し上げます。2026年が皆さまにとって祝福に満ちた年となりますように！